

平成30年1月14日(日)

老球の細道385号

「一言」の力

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昨年末のウインターカップは久々に感動を味わった。女子においてダークホースの大阪桐蔭高校が優勝したことである。今年のインターハイ、国体こそベスト4に入賞しているが、過去10年のウインターカップ結果を見ても2014年に初出場(2回戦敗退)し、今回2回目で全国制覇を果たした。まさに番狂わせの初優勝だった。

この大阪桐蔭高校という学校は、今年は特にあちこちで名前を聞く。野球においては春の甲子園で優勝。また今日の全国高校ラグビーにおいても全国準優勝である。

これだけ全国トップクラスの運動部を擁するのでスポーツだけの高校かと思いきや、朝日新聞が主催する中学生、高校生が心に響いたこととそのエピソードをつづる『私の折々のことばコンテスト2017』においても、3万1588点の応募の中から大阪桐蔭高校2年生の作品がベスト6の優秀賞に選ばれ、学校自体も「学校賞」を受賞している。

「プラスはマイナスから書き始める」。大阪桐蔭高校の生徒の作品である。いつか実を結ぶという意味と、一本書き加える努力が大切という意味で、友達から声をかけられた言葉だという。大阪桐蔭高校では色々な運動部において、このような一言の声掛けが日常的になされて、選手たちのがんばりに力を与えているのだろうか。

手前味噌になるが、かつて私も接戦のここ一番に、これと似たような一声を選手たちにかけたことがある。ただ「頑張れ」ではなく、土壇場、正念場では「一言の一刺し」がものを言う。「今は辛いかもしれないが、ここ一ふんばりディフェンスを頑張り続ければ勝てる。幸せになれる。“幸”という字は“辛”という字に一本書き加えることができるんだ」

『私の折々のことばコンテスト』で引用された一言の有名人ベスト5は①トーマス・エジソン、ウォルト・ディズニー③松岡修造④王貞治⑤イチロー。なんとスポーツ関係者が4人も占めている。スポーツ関係者の一言は多くの人々の人生に影響を与えているのだ。その中でも松岡修造は過去2年連続1位で、今回は初の3位となった「一言大王」である。

「苦しい時こそ笑え」「今日から君は噴水だ」などの熱い「修造語録」で知られるが、実は松岡修造自身は超ネガティブ思考をする人間だそうで、自分自身がポジティブになるために、あえて「大丈夫、君ならできる」「もっと熱くなれ」って他人に語りかけながら、自分自身にハッパをかけるという。

私もこの通信において毎月末に「月の言葉」を集め、コメントを加えながら自分に気合いを入れる。このような作業が自分自身を啓発するだけではなく、知らないうちにバスケットボール講習会時に子どもたちに伝える言葉として整理されている。

コーチは言葉と背中選手を育てる。選手の心を動かす一言を毎日どのように発するかはコーチの重要な試練である。現役コーチの時、その「一言」を探すために本を読んだり、映画のセリフを聴いたり、人の話を聴いたりした。その習慣が今も続く。

生徒指導時も同じであった。ただどやしつけるのではなく「一言の力」で相手を目覚めさせる。喜多方女子高校時代に授業中髪の毛をいじってばかりいた生徒に次のような一言を紙に書いてやったら、その生徒はえらく気に入って福島民報に投書したことがあった。「髪に櫛を入れるより、脳にシワを入れよ。ポケットには1本の櫛より、一冊の文庫本を！」